

ボランティアクラブの紹介

手話サークル千羽会が発足したのは昭和五十二年でした。当時、都留ライオンズクラブの主催で開催された初級手話講習会を受講した有志が集まり、手話技術の向上と仲間づくり、また聴覚障害者との交流や情報確保の支援を行う事を目的に結成されました。現在の会員は二十六名で、六人の聴覚障害者が千羽会の会員として一緒に活動しています。

■主な活動内容■

- 手話の学習と、聴覚障害者の生活問題などを一緒に考えています
- 小中学校などで手話や聴覚障害者に対する理解を広めるための活動をしています
- パーベキュー大会などを開催し、聴覚障害者と交流し親睦を深めています
- 山梨県聴覚障害者協会、全国手話通訳問題研究会山梨支部と連携を図り聴覚障害者のための様々な行事に参加協力しています

耳が聞こえないってどんなこと？

毎日の暮らしの中で、音が聞こえなかったらどうでしょうか。例えば、病院や銀行の窓口で呼ばれても聞こえません。緊急時における情報も聞こえません。居ないと思われて順番を越されたり、避難が遅れたりなど不利益なことや生命に係わることもあります。また「挨拶したのに返事が無い」(後ろから挨拶されてもわかりません)と聴覚障害者に対する理解の不十分さから誤解を受けてしまうことが多々あります。

もしもどこかで聴覚障害者と出会ったら

手話ができなくても大丈夫です。コミュニケーションの方法はいろいろあるので、身構えずに向き合ってください。口の動きがわかるように正面からはつきり話して伝える方法や、文字を書いて伝える方法、また空間や手のひらに指で文字を書いて伝える方法もあります。

千羽会では、手話を通じて一人でも多くの皆さんと一緒に「障害者にとって住みよいまちづくり」を考えていきたいと思って活動しています。

関心のある方は、ぜひ一緒に活動してみませんか。

問合せ

代表 天野瑛美 ☎(45) 5570
都留市社会福祉協議会 ☎(46) 5115



千羽会のみなさん



☆護情報 ☆護相談コーナー

夫の両親と一緒に暮らしていますが、最近おばあさんの食事に時間がかかって大変です。うまく食べられないようで、しょっちゅうむせたりあとから咳き込んだりしています。そのため一口食べるのにとっても時間がかかってしまい本人も疲れてしまうようです。食べ物間違えて肺や気管のほうにばかり入っていると肺炎をおこしてしまうと聞きましたがどうすれば予防できるでしょうか。

口の中のごれは、歯だけではなく舌にもつきます。舌にある味を感じる部分によごれがたまっていくために味がわからなくなり、食事をおいしく食べることができなくなります。こうして食欲がなくなることにより免疫力や抵抗力が落ち、体も次第に弱ってきます。このような状態で気管に間違えて食べ物や飲み物が入ってしまうと健康な人のように咳をすることで気管に入ってしまった物を外に出すことができず、口の中の細菌が食べ物と一緒に肺の中に入りこみ、誤嚥性肺炎をおこすことになります。こうしたことを予防するには口腔清掃(口腔ケア)をうけるとよいでしょう。

口腔ケアでは、次のような治療を行います。

◆口腔清掃(呼吸器感染の予防)

うがい 歯みがき 義歯の清掃 舌・粘膜の清掃

◆口腔機能の回復(刺激による口腔の感覚・運動機能の活発化)

リラクゼーション 異常感覚除去 舌や口まわりの筋力訓練
唾液腺への刺激 飲み込みを促す訓練 発生発語の練習

市内には歯科医師の往診、歯科衛生士の訪問などのサービスを提供しているところもあります。詳しくは担当のケアマネジャー、かかりつけの歯科医師または下記までご相談ください。

問合せ 都留市在宅介護支援センター ☎(46)5114



肺炎が起こる